

vol.

11

2026.05.01

ガバナー月信

Governor's Monthly Communication

Rotary International District 2690

2025-26

2025-26年度

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレッツォ

国際ロータリー第2690地区(鳥取・島根・岡山)

2025-26年度地区ガバナー 坂口 元昭



橋本興家「牡丹」

- 青少年奉仕月間に寄せて 02
- 原田明成地区ガバナーノミニ一
デジグネットの紹介 03
- クラブ会長エレクトラーニングセミナー
報告 04
- 第6グループIM報告 05
- 2025-26年度ロータリー財団
グローバル補助金奨学生報告 06
- 地区だより 08
- 出席報告 10

Rotary
District 2690



よいことの
ために
手を取りあおう

青少年奉仕月間に寄せて

地区ガバナー

坂口 元昭



5月は「青少年奉仕月間」です。

ロータリーにとって青少年奉仕は、未来を担う若い世代の成長を支え、その可能性を信じて、ともに歩いていくための大切な活動です。子どもたちや若者たちが夢や希望を持ち、自分らしく力を発揮できる社会をつくっていくことは、私たちロータリアンにとって大きな役割の一つであると感じます。

今、青少年を取り巻く環境は大きく変化しています。情報があふれ、便利になった一方で、人と人とのつながりの希薄さや、将来に対する不安を抱える若者も少なくありません。そうした時代だからこそ、地域の大人が若い世代にしっかりと目を向け、声に耳を傾け、成長を温かく支えていくことがますます大切になっているのではないのでしょうか。

ロータリーでは、インターアクト、ローターアクト、RYLA、青少年交換など、さまざまな青少年育成の機会を設けています。これらの活動は、単に経験の場を提供するだけではなく、参加する一人ひとりに、自立心や責任感、他者を思いやる心、そして奉仕の精神を育む貴重な機会となっています。若い時期に得たこうした経験は、その後の人生において大きな力となり、やがて地域や社会を支える原動力になっていくことでしょう。

また、青少年奉仕は若い世代のためだけのものではありません。私たち大人にとっても、若者と関わることは多くの学びや気づきを与えてくれます。まっすぐな思いや柔軟な発想、失敗を恐れず挑戦しようとする姿に触れるとき、私たち自身もまた元気をいた

だき、初心を思い出すことがあります。青少年奉仕とは、支える側と支えられる側という一方通行の関係ではなく、世代を超えて互いに学び合い、育ち合う営みなのだと思います。

本年度、地区メッセージとして掲げております「よいことのために手を取りあおう」は、青少年奉仕においてこそ、その意味がより深く表れるものではないでしょうか。若者たちの成長を支えるためには、クラブだけでなく、家庭、学校、地域、関係団体など、さまざまな立場の人々が力を合わせる大切が必要です。ロータリーがそのつながりの輪を広げ、地域ぐるみで青少年を支えていくことは、未来への確かな投資でもあります。

青少年は、これからの社会をつくっていく大切な存在です。その可能性を信じ、活躍の場を広げ、挑戦する勇気を後押しすることが、私たちができる大きな奉仕です。時には失敗や迷いがあっても、温かく寄り添い、再び前を向く力を支えていくこともまた、私たちの役割であると思います。

この青少年奉仕月間を機に、各クラブにおかれましても、地域の青少年との関わりをあらためて見つめ直し、次の時代を担う人たちの成長を支える取り組みを、さらに進めていただければ幸いです。

若者たちの輝きは、地域の希望であり、未来そのものです。その輝きをさらに大きなものにしていくために、私たちロータリアンが心を合わせ、手を取りあって歩んでまいりましょう。

原田明成地区ガバナーノミニリー・デジグネートの紹介



原田 明成

Harada Akinari

第4グループ 出雲南ロータリークラブ

生年月日 1960年8月2日生

職業分類 宗教用具配布

■経歴

- 1982年 衆議院議員秘書
- 1983年 立正大学経済学部経営学科 卒業
- 1984年 有限会社 原田仏壇製作所 入社
- 2012年 有限会社 仏壇の原田 代表取締役社長 就任
- 2012年 有限会社 和光商事 代表取締役社長 就任

■公職・表彰

- 出雲商工会議所 常議員 商業部会長
- 一般社団法人島根県法人会連合会 理事 組織委員長
- 島根県経済同友会出雲支部 理事
- 出雲市観光協会 理事
- 1997年 島根県原子力発電調査委員会 委員
- 1997年 社団法人出雲青年会議所 理事長
- 1997年 JCI Youth activity Award
- 1998年 社団法人日本青年会議所 中国地区協議会 監事
- 1999年 社団法人日本青年会議所 評議員 島根ブロック会長

■ロータリー歴

- 2001年2月 出雲南ロータリークラブ入会
- 2007-08年度 クラブ幹事
- 2018-19年度 Rotary ROAR JAPAN会長
- 2021-22年度 第51代クラブ会長
- 2023-24年度 第4グループガバナー補佐

■ロータリーの表彰

- ロータリー財団 マルチプル・ポールハリスフェロー6
ベネファクター
ポリオプラス・ソサエティ会員
- 米山記念奨学会 第7回米山功労者マルチプル
- 2008-09年度 第2690地区「ロータリー全世界での探求賞」
- 2025-26年度 第2690地区 クラブビルダー賞

クラブ会長エレクト ラーニングセミナー報告

地区ガバナーエレクト

金谷 晋爾



2026年3月7日および8日の両日、倉敷国際ホテルにおいて「2026-27年度 会長エレクト・ラーニングセミナー」を開催いたしました。本セミナーには、次年度クラブ会長予定者をはじめ、ご来賓並びに地区役員の臨席のもと、次年度に向けた重要な研鑽の場となりました。

1日目は、地区ガバナーエレクトの点鐘により厳粛に開会され、国歌ならびにロータリーソングの斉唱の後、次期地区ラーニングファシリテーター、次期ガバナー補佐および次期地区役員の紹介が行われ、次年度の地区運営体制が共有されました。

セッション【1】基調講演では、地区ガバナーエレクトより次年度の地区目標が示され、出席者一同がその理解を深める機会となりました。

夕刻には懇親会が催され、和やかな雰囲気の中で相互の親睦を深めることができました。

2日目は、「研修」から「ラーニング」への名称のとおりに、4名の講師により実践的かつ多角的なプログラムが実施されました。

セッション【2】では、国際ロータリー第2580地区パストガバナー 嶋村文男様に「クラブ会長の心得と任務」と題してご講演いただき、クラブ運営における指導力と責務の重要性が改めて示されました。本セッションは、次期ガバナー補佐をリーダーとして11のグループに分かれたグループ・ディスカッション形式で行われ、活発な討議が交わされました。

また、セッション【3】では、次期地区ラーニングファシリテーター 松本祐二様に「AIを使ってロータリーを考えよう!」と題してご講演いただき、AIの新たな技術の活用を踏まえた今後のロータリー活動の可能性について、示唆に富む内容が示されました。

さらに、セッション【4】では、国際ロータリー第2680地区危機管理委員長 黒田健一様に「ロータリーの危機管理」と題してご講演いただき、青少年奉仕活動を行う上での危機管理の重要性についてご教示いただきました。

最後に、セッション【5】では、国際ロータリー第2730地区社会奉仕委員長 勢井由美子様に「感受性を豊かにするというとは?～Visual and Sound Thinking Action Plan～」と題してご講演いただき、次代を担う若者の感受性を育む取り組みについて理解を深める機会となりました。

本セミナーを通じ、次年度クラブ会長としての自覚と責務を一層明確にするとともに、クラブ運営に資する知見を共有することができたものと存じます。今後、各クラブにおいて本研修の成果が十分に活かされ、さらなる発展につながることを期待いたします。



第6グループIM報告

IM実行委員長

西江 道也 (笠岡RC)



国際ロータリー第2690地区第6グループインターシティ・ミーティング(IM)を、令和8年3月15日、笠岡グランドホテルにて開催いたしました。当日は第6グループ8クラブより約182名の皆さまにご参加いただき、盛会のうちに無事終了することができました。

本年度のRIテーマは「UNITE FOR GOOD — よいことのために手を取りあおう」であり、本IMではこれを受け、「UNITE FOR GROWTH — 共感と感動で広がるロータリーの輪」をテーマに掲げました。各クラブの会員拡大に関する現状や課題、取り組みを共有し、相互の学びと成長につなげることを目的として開催したものであります。

当日は、RI第2690地区ガバナー 坂口元昭様(米子南ロータリークラブ)をはじめ、地区代表幹事 坂本高司様(米子南ロータリークラブ)、地区副代表幹事 田中貴之様(米子南ロータリークラブ)、ガバナーエレクト 金谷晋爾様(玉島ロータリークラブ)、次期地区代表幹事 平井始様(玉島ロータリークラブ)、第6グループ次期ガバナー補佐 薬師寺公一様(総社吉備路ロータリークラブ)のご臨席を賜り、会に格調を添えていただきました。

プログラムの中核として、第6グループ全8クラブより各5分間の発表が行われました。各クラブとも地域の実情に即した取り組みを紹介されるとともに、会員減少や高齢化、新規会員の定着といった共通課題についても率直な共有がなされ、非常に有意義な内容となりました。これらの発表を通じて、クラブ間の相互理解と連携の必要性が改めて認識され、今後の活動につながる大きなヒントを得る機会となりました。

続いての特別講演では、東京麹町ロータリークラ

ブ若林英博パストガバナーを講師にお迎えし、「もっと元気なクラブになろう」と題してご講演をいただきました。豊富なご経験に基づく具体的なお話は、クラブ運営や会員増強のあり方について多くの示唆に富む内容であり、参加者にとって大変貴重な学びの時間となりました。

また、本会議に先立ち3月1日には、JFE瀬戸内海ゴルフクラブにて懇親ゴルフ大会を開催いたしました。当日は 坂口元昭ガバナーをはじめ、田中貴之副代表幹事にもご参加いただき、クラブの垣根を越えた親睦を深める有意義な機会となりました。

さらに本会議後の懇親会では、笠岡ラーメンや笠岡干拓地の肉牛など、地元の特色ある食材を活かしたおもてなしにより、和やかな雰囲気の中で交流を深めることができました。

本IMの開催にあたり、準備段階から当日の運営に至るまで、多くの会員の皆さまに多大なるご尽力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。本会が、第6グループ各クラブのさらなる活性化と会員拡大への取り組みの一助となり、今後のロータリー活動の発展につながることを祈念し、ご報告いたします。



2025-26年度ロータリー財団 グローバル補助金奨学生報告

グローバル補助金奨学生
猪原 彩美



1. 学業面での成果

2025年12月中旬から約一か月の冬期休暇がありましたが、最後の1週間までは秋学期に履修した二科目の最終課題に集中的に取り組みました。先日成績が公開され、いずれの科目も無事にPassすることができました。どちらの課題も教授から丁寧なフィードバックがあり、共通して指摘された点もあったため、春学期の課題ではそれらを改善していきたいと思います。

1月末から始まった春学期では、修士論文執筆に向けたレクチャーに加え、「Managing Economic Instability (経済不安定性への対応)」と「Poverty Vulnerability, and the Global Economy (貧困、脆弱性とグローバル経済)」の二つのオプションモジュールを履修しています。

「Managing Economic Instability」では、実物経済中心の資本主義から金融資本中心の経済へと移行した国際経済の構造変化を、過去の金融危機の事例と最近の動向から紐解いています。金融危機の共通要因・相違点、現代も持続する金融システムの制度的課題、そこから派生する貧困や格差のメカニズムなど、多面的に考察しています。授業の第3週目からは、各グループで特定のテーマに関する15分程度のドキュメンタリーを制作し、上映後にディスカッションを行うという実践的な取り組みが始まっています。私のグループは「de-dollarisation (脱ドル化)」がテーマです。「de-dollarisation」を、ドル中心のグローバル秩序に対する政治的・経済的な挑戦として位置付け、近年の状況や、新興国・途上国の動向をケーススタディとして取り上げ、動画を作成しました。他の授業でもプレゼンテーションを行う機会はよくありますが、ドキュメンタリー制作は初めての試みで、内容だけでなく技術的な難しさにも直面しつつ、共同作業を通じて多くの学びを得る貴重な経験となりました。

先の授業は、私の専攻である国際政治経済学の視点を通じて金融システムの構造を捉える授業でしたが、「Poverty Vulnerability, and the Global Economy」では、貧困や脆弱性、周縁化といった現象が、世界経済の中で

のような構造的プロセスを通じて生み出され、再生産されるのかを、人類学の視点から学んでいます。貧困を単なる「排除」や「取り残し」と問題視するのではなく、経済システムの一部として機能させられながらも、その恩恵からは排除され、依存と搾取の構造に取り込まれるプロセスについて、人類学の学術論文をもとに他の学生と議論をしています。「貧困/脆弱性とは何か」など、一つ一つの言葉の本質を何度も問い直しながら学び、貧困指数など統計データだけでは捉えきれない、その数字に隠された現実への理解を深めることは、春学期以降の修士論文執筆時にも大切にしたい重要な視点です。

春学期の授業は、コース横断型の選択授業のため、異なる学問領域の学生と協働しながら学ぶことで、自分の関心をより広い視野で再考する機会が増え、学びの幅が一層広がっているように感じます。先日、修士論文の仮テーマを提出し、指導教員が決定しました。今後は、教授との面談を重ねながら本格的に研究の時期に入っていきます。もう少し授業は続きますが、これまで得た知見を踏まえつつ、論文の構想も段階的に固めていきたいと考えています。

2. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、 カウンセラーとの交流

前回の報告以降、他の地区の奨学生とお会いする機会はありませんでしたが、担当カウンセラーや、受け入れ地区 (Brighton and Hove Soiree Rotary) のロータリアンの皆様とは継続的にお会いし、温かいご支援をいただいております。

クリスマス前には、Rottingdeanという町にあるSt Margaret Church (教会) や、その周辺のカフェとパブに案内していただきました。英国に来てからスコーンをいただくのは今回が初めてでした。カウンセラーの方とお話しをしていて興味深かったのは、スコーンの食べ方にまつわる英国特有の論争です。スコーンを半分にスライスし、クロテッドクリームとジャムを塗って食べる際、「どちらを先にのせるか」という話題がよく盛り上がるそうです。カウンセラーも私も「クリームを先に、その上にジャムをのせる」というスタ

イルが好みで、偶然にも共通していました。その後、クリスマスの時期に伝統的に親しまれているMulled Wine(ホットワイン)を試してみたいと、Rottingdeanで最も古いとされるパブの一つに連れて行ってくださりました。1513年創業という歴史あるパブで、冬になると各店が自家製のMulled Wineを仕込むのだそうです。シナモンや八角の香りが効いたMulled Wineはとても味わい深く、海沿いの町Rottingdeanの冷たい空気の中を歩いた後の身体を温めてくれました。

翌週には、カウンセラーのご自宅に招いていただき、クリスマス会に参加しました。ご自宅の一角に住んでいる学生とその友人が加わり、計4人で食事やクイズ、歌などを楽しみました。イギリスの伝統的なクリスマスの付け合わせであるPigs in Blankets(ソーセージをベーコンで巻いたもの)や、カウンセラー特製のMulled Wine、Chocolate



Self-Saucing Puddingという学校給食でも親しまれているデザートなど、さまざまな手料理でもてなしていただきました。また、クリスマスクラッカーを引き合い、中に入っている紙の冠を被ってクイズやジョークを楽しみました。

ほかにも、先日は大学の横にあるStanmer Park内のカフェで、カウンセラーと同地区のロータリアン2名と近況報告をしたり、翌週にSeven Sistersを案内していただいたりしております。地殻変動によって海底が隆起して形成されたチョークの断崖は、風や波により日々浸食しており、9月に友人と訪れた際には降りられたビーチも、今回は崩落の危険のため立ち入りが制限されていました。名前はSeven Sistersですが、浸食によって8つ目の丘が形成されつつあったりと、自然のダイナミズムを実感しました。

カウンセラーの方は、少なくとも月に1度は近況を共有する機会を設けてくださるほか、英国の文化や歴史に触れら



れる場を積極的に提供してくださっています。訪れる場所の背景や由来を丁寧に説明して下さるため、一人/友人と行くだけでは得られない学びがあり、大変ありがたく、嬉しく思います。

3. 直面した課題、問題点等

春学期初日にインフルエンザに罹患し、授業を一日欠席せざるを得なかったことは反省すべき点だと感じています。前回の報告で体調管理への注意を述べていたものの、秋学期の課題を提出し終えた安堵と春学期が始まる緊張感に加え、気温差などに十分に対応しきれていなかったことが一因と考えられます。幸い、友人が食料を差し入れてくれるなど周囲の助けもあり無事に回復しましたが、体調を崩して学習ペースを乱してしまわないように、学業の基盤である健康には今度こそ気を付けたいと思います。

その他大きな問題はありませんでしたが、学業面では一人で集中して勉強をすることが多いので、授業やその前後以外の時間に、他者と対話をする機会が少ないように感じています。一人で考え、集中する時間が必要である一方、他方で、学際的な議論や他の学生との何気ない会話の中で得られる視点も、思考を広げたり研究を進めたりするうえで重要です。今後も変わらず授業の予復習等、一人で勉強に励むことも多いとは思いますが、意識的に時間を作って友人と話し合ったり、学習と交流のバランスを取るようにしたいと思います。



4. 今後の課題、目標

今後の課題・目標は、修士論文執筆に向けて、その構想を精緻化していくことです。1年間という短い修士課程の中で、実質的な執筆期間は、春学期終了後の5月から8月末までの3か月のみと限られています。学部時代よりも時間的制約が大きく、さらに学術的かつ英語で執筆することになるので、乗り越えなければならない山に何度も直面することが予想されます。とはいえ、周囲は、同じく留学生として同様の状況で頑張る人ばかりなので、支え合いながら、限られた期間でも納得のいく研究に仕上げられるよう、努力していきたいと思います。

地区だより (2026年3月)

新会員のご紹介



島田孝治
米子南RC



山尾昭
大田RC



板谷武
倉敷RC



脇之菌隆
岡山RC



中原教
岡山岡南RC



渡邊裕介
岡山西RC



松倉英生
岡山西南RC

ロータリー財団への寄付

ポール・ハリス・ソサエティ



大平真澄
岡山南RC

メジャードナーレベル1



鈴木香
新見RC

ベネファクター(恒久基金)



竹内ひとみ
鳥取RC



安達亨
松江南RC



新宮瑞夫
松江南RC



原田慎一
松江南RC



藤原俊樹
松江南RC

ポール・ハリス・フェロー(年次基金への寄付)



植田哲朗
鳥取北RC



岡空晴夫
境港RC



増谷立夫
境港RC



川崎正志
高梁RC



大平真澄
岡山南RC



榊原敬
岡山南RC



藤田尚徳
玉野RC



笠原武
岡山城RC

クラブ年次基金

智頭RC100.00ドル

鳥取北RC 39.89ドル (新会員寄付)

米子中央RC900.00ドル (ミリオンダラーミール)

笠岡RC155.69ドル (ミリオンダラーミール)

笠岡東RC175.00ドル (ミリオンダラーミール)

岡山城RC 1,758.33ドル (財団BOX)

岡山西南RC 10.00ドル (新会員寄付)

1.00ドル(1ドル寄付)

クラブポリオプラス

境港RC 83.33ドル

米子中央RC400.00ドル

児島東RC 88.01ドル

第7グループ654.96ドル (IM ポリオ募金)

倉敷中央RC293.40ドル (ポリオ募金チャリティにて)

倉敷南RC207.69ドル (ミリオンダラーミール)

岡山西南RC189.75ドル (財団BOX

1月第2~3月第2例会)

法人寄付

鳥取北RC (有)元山 (64.10ドル)

鳥取北RC 田中工業(株) (96.15ドル)

鳥取北RC 鳥取瓦斯(株) (96.15ドル)

鳥取北RC 山根金属(株) (64.10ドル)

松江南RC あいおいニッセイ同和損害保険(株)鳥根支店 (32.05ドル)

松江南RC (株)松江エクセルホテル東急 (32.05ドル)

松江南RC 三井住友海上火災保険(株)山陰支店 (32.05ドル)

松江南RC 明治安田生命保険(相)松江支社 (32.05ドル)

松江南RCALSOK山陰(株) (32.05ドル)

松江南RC (株)テクノプロジェクト (32.05ドル)

松江南RC NTT西日本(株)鳥根支店 (32.05ドル)

松江南RC 鹿島建設(株)中国支店 山陰営業所 (32.05ドル)

松江南RC 第一生命保険(株)鳥根支社 (32.05ドル)

松江南RC JR西日本山陰開発(株) (32.05ドル)

松江南RC 損害保険ジャパン(株)山陰支店 (32.05ドル)

松江南RC 山陰中央テレビジョン放送(株) (32.05ドル)

米山記念奨学会への寄付

米山功労者



水野治郎 鳥取北RC
 岩崎陽一 鳥取西RC
 楠明彦 米子東RC
 中濱康幸 笠岡東RC
 小仁井堅一 岡山城RC
 布目浩二 岡山丸の内RC

クラブ普通寄付

倉吉RC 97,500円
 松江東RC 76,500円
 岡山北西RC 242,500円

クラブ特別寄付

鳥取RC 20,680円 (米山ランチ) 笠岡東RC 26,520円 (米山ランチ)
 鳥取中央RC 14,520円 (米山ランチ) 岡山丸の内RC 5,074円 (米山BOX)
 松江東RC 42,000円 (米山ランチ)

法人寄付

鳥取北RC (有)元山 (10,000円) 鳥取北RC 鳥取瓦斯(株) (15,000円)
 鳥取北RC 田中工業(株) (15,000円) 鳥取北RC 山根金属(株) (10,000円)



謹んで哀悼の意を表し、
 ご冥福をお祈りします。



今井 健 (岡山南RC)
 ご逝去日/2026年3月1日
 享年/87
 入会日/1989年4月22日

出席報告 (2026年3月)

クラブ名	ホームクラブ 出席率 (%)	例会数	会 員 数				
			7月1日	3月末日	内女性会員	増減	
第1グループ	智 頭	86.96	3	7	7	0	0
	倉 吉	83.04	3	39	39	3	0
	倉吉中央	63.24	4	18	17	2	▲1
	倉吉東	52.55	3	48	46	5	▲2
	鳥 取	77.02	3	55	54	4	▲1
	鳥取中央	72.73	2	40	44	3	4
	鳥取北	68.42	3	41	41	7	0
	鳥取西	71.79	3	51	52	2	1
小計(8)	-	-	299	300	26	1	
第2グループ	境 港	62.22	3	48	49	1	1
	米 子	61.65	3	69	65	5	▲4
	米子中央	91.67	3	37	37	2	0
	米子東	64.26	3	109	109	11	0
	米子南	54.07	4	70	78	7	8
	小計(5)	-	-	333	338	26	5
第3グループ	松 江	74.85	3	55	59	1	4
	衛星クラブ	59.09	2	10	11	5	1
	松江東	83.80	3	51	51	3	0
	松江南	71.67	4	63	62	6	▲1
	松江しんじ湖	76.88	4	40	43	8	3
	隠岐西郷	54.39	3	22	18	0	▲4
	小計(5)	-	-	241	244	23	3
第4グループ	平 田	72.07	3	38	37	2	▲1
	出 雲	72.73	4	55	56	2	1
	出雲中央	70.75	3	48	47	2	▲1
	出雲南	73.71	3	77	81	6	4
	大 社	53.74	3	53	53	5	0
	小計(5)	-	-	271	274	17	3
第5グループ	江 津	64.74	4	42	42	3	0
	浜 田	62.30	4	59	59	5	0
	益 田	65.08	3	21	21	2	0
	益田西	59.80	3	33	33	2	0
	大 田	69.01	3	23	24	3	1
	小計(5)	-	-	178	179	15	1
第6グループ	井 原	73.53	3	35	37	2	2
	笠 岡	87.22	4	47	46	3	▲1
	笠岡東	86.61	3	39	37	1	▲2
	新 見	77.19	3	18	19	2	1
	総 社	58.33	3	12	12	2	0
	総社吉備路	65.00	4	28	25	1	▲3
	高 梁	76.47	4	34	34	1	0
	玉 島	82.08	4	28	30	6	2
小計(8)	-	-	241	240	18	▲1	

クラブ名	ホームクラブ 出席率 (%)	例会数	会 員 数				
			7月1日	3月末日	内女性会員	増減	
第7グループ	児 島	77.27	2	12	12	0	0
	児島東	96.30	3	9	9	0	0
	倉 敷	81.75	4	71	73	2	2
	倉敷中央	89.80	4	18	18	6	0
	倉敷東	82.56	4	24	24	4	0
	倉敷南	64.24	3	59	56	5	▲3
	倉敷水島	91.30	3	17	17	0	0
	倉敷瀬戸内	59.52	4	22	22	1	0
	小計(8)	-	-	232	231	18	▲1
第8グループ	真 庭	81.06	4	32	33	2	1
	美 作	66.20	3	25	24	1	▲1
	津 山	44.10	3	96	95	4	▲1
	津山中央	80.77	2	12	13	3	1
	津山西	65.43	3	32	31	5	▲1
	小計(5)	-	-	197	196	15	▲1
第9グループ	備 前	53.33	3	38	41	4	3
	岡 山	79.37	4	107	112	7	5
	岡山東	80.22	3	96	98	3	2
	岡山北西	70.00	4	48	49	5	1
	岡山後楽園	75.00	3	50	51	4	1
	小計(5)	-	-	339	351	23	12
第10グループ	岡山旭川	50.00	4	33	31	1	▲2
	岡山中央	39.29	2	24	28	9	4
	岡山北	52.56	3	51	52	5	1
	岡山南	68.59	4	152	150	22	▲2
	玉 野	63.33	3	24	30	1	6
	小計(5)	-	-	284	291	38	7
第11グループ	岡山備南	62.79	3	21	18	0	▲3
	岡山城	52.38	3	20	21	1	1
	岡山岡南	70.87	4	23	27	2	4
	岡山丸の内	69.05	4	43	42	2	▲1
	岡山西	65.06	4	64	71	14	7
	岡山西南	83.54	3	55	56	7	1
小計(6)	-	-	226	235	26	9	

地区クラブ内の状況

クラブ数	65RC
2025年7月1日会員数	2841名
2026年3月末日会員数	2879名
内 女性会員	245名
純増	38名

※7月1日会員数には、7月1日入会の新会員は含まれておりません。
 ※7月1日入会の新会員は、7月末日会員数に含めさせていただきます。
 ご了承をお願いいたします。